

TBS

「放送局におけるドローンの利活用」

～東京放送ホールディングス～

I TOP 横浜キックオフ

2017年6月20日

東京放送ホールディングス
次世代ビジネス企画室 兼 投資戦略部 石井大貴

TBSドローン運用の3本柱

① 報道運用

② 番組・イベント運用

③ パイロット・運行管理者の育成

(1) 報道運用 - 災害・緊急対応 -

有事、災害時（原発・雪山など）人の踏み込めない場所の取材の際などにドローンを有効に活用

- ① 現場において、空撮による俯瞰映像から現場の全体像を容易に捉えることが可能
- ② ヘリコプターでは成し得なかった、至近距離からのハイポジ映像が撮影可能
- ③ ローカル局におけるヘリの代替え機材としての運用
- ④ 報道とは、「国民に知らせ、情報として真実を伝える」という考えからも必要

(2) 番組・イベント制作

ドラマやバラエティー番組での使用やお天気中継だけでなく、ドローンスピードレースやゲーム開発、クリエイティブ利用を推進している

① ドラマでの空撮利用

CG技術との組合せで見たことのない映像を視聴者に届けることができる

② バラエティー番組での使用

金スマ・SASUKE・体育会TVなど多数

(2) 番組・イベント制作

③ お天気中継での利用

空撮により現地の天候と季節感を分かり易く伝えることに利用

④ その他のエンタテイメント利用

- ・仙台ゼビオアリーナでのスピードレース
- ・各自治体でのドローン活用イベント
- ・ニコニコ超会議でのドローンゲーム開発
- ・ドローンを利用した映像クリエイティブ

(3) オペレーター育成 -TBS/JNNの取り組み

全国JNN系列28局を巻き込み、ドローンパイロット・オペレータの育成に乗り出している！ (JDS) 既に200名以上の卒業生輩出

① 他に類を見ない立地環境

講習は横浜市に位置する広大な緑山スタジオ (DID地区外) の敷地を利用

② 系列に留まらず各団体への展開を検討中

ドローンの発展のため、事故の減少に寄与したい

(3) オペレーター育成 -TBS/JNNの取り組み

- 1泊2日で1回20名ほど講師を4名以上配置し初心者中心にレクチャー
- 練習方法やリスク管理などを中心に講習
- TBS系列で現場横断的な組織作りを目指している



ドローン勉強会@緑山スタジオ

- 福田峰之氏はじめ神奈川県議、横浜市議、職員にむけてドローン勉強会の開催
- 座学2.5時間、オペレート3時間
- ドローン推進企業との意見交換会



放送局各社のドローン事情

- 基本各社報道局のみで運用
 - 所有機体も数機のみ（NHKも）
 - 全国包括免許を持っているのは限られている（キー局中心）
- 番組・イベントで使用する場合はプロダクションに発注
 - 1回8～15万円が中心（2名）
- ドローンに興味がある人中心に運用している（属人的）
- 空撮業務が中心
- 安全管理に敏感で慎重に取り組んでいる
- DJIキャンプ、JUIDAなどで自主訓練中心
- 社内規定は社員は操縦禁止（報道はのぞく）
- 高画質伝送での生中継が可能になってほしいと望んでいる
- 新聞社は様子見が多い

課題

- ・国家資格がなく、安易な飛行が事故や問題に繋がる可能性がある
- ・申請に時間がかかるため、有事（災害時等）にドローン利用が可能かが疑問
- ・自治体などに申請、許可時に窓口がはっきりしないことが多い
- ・電波利用状況にも課題
（混信や一度に多くの機体が運用できない）
- ・ビジネス、一般ユーザーとの線引きが出来ていない
- ・オペレーター不足にも慢性的な課題がある

課題

- マネタイズが出来ないと業界自体が先細りする可能性がある（大手企業もまだ消極的であり、マーケットが小さい）
 - ドローン物流、ドローンセキュリティはまだ実用化に遠い
 - 働き方改革で人に代われるドローンビジネスの確立
- 小規模空撮業界やサービスが乱立（操縦技能の低下懸念）
- 機体が雨天や強風の時に使えない（防水でない、風に弱い）
- ドローンの評判やイメージが悪くなっている
- 長時間フライト出来ない
- 安全性が保証された機体が存在しない
 - プロペラがむき出し（外れないカバーや覆いがないと）
 - 第三者上空もある程度担保がないと絶対無理

解決のために

- JDSを恒常的に実施し、全国に安全運行管理者、オペレーター、パイロットを適切に配置する
- JNNネットワークを機能させ、様々なニーズに応えられるような状況を整える
- 空撮やエンタテイメント利用を継続させ、技術力を向上するだけでなく、世の多くの方にドローンの利便性や身近さ、楽しさを伝えていく
- 業界の様々な団体や関係者、自治体、行政の皆様と継続的に対話、意見交換を続けていく

以上